

オリ・パラ かわらばん No.3

香川県教育委員会

「東京パラリンピックへの挑戦」



パラ陸上 やり投げ
 三井住友海上火災保険(株)所属 田中 司 (たなか つかさ)
 (経歴)
 香川県高松市出身、高松市立太田中学校卒業、相撲部屋へ入門したが、視力の悪化が進んだため香川県立盲学校高等部へ、2年生の時から陸上を始める
 三井住友海上入社 日本パラ陸上競技選手権大会優勝、ジャパンパラ陸上競技大会優勝
 IPCグランプリ大会銅メダル 投てき(円盤投げ、砲丸投げ、やり投げ)3種目で日本記録保持

三井住友海上火災保険株式会社所属の田中司です。現在は、高松市で「仕事と競技の両立」を目標に活動をしています。今回は、陸上競技やり投げを始めるまでの経緯や障害者スポーツ、これからの目標をお話しさせていただきたいと思っております。



野球選手を目指して

小学2年から野球を始め、将来は甲子園出場・プロ野球選手になりたいと日々泥まみれになりながら白球を追いかけていました。小学校では太田南オックスで全国スポーツ少年団香川県予選3位となり、西日本大会に出場しました。中学校では太田中学校で香川県総体3位になるなど、順風満帆な野球生活を送っていました。

しかし、中学3年の冬に遺伝性の視神経萎縮「レーベル病」という視力障害を発症し、野球を続けることを断念しました。医師からは、治療法がなく今後視力の変化はわからないと診断されました。中学3年の冬で受験シーズンが始まっている中、私は県内の私立高校へ進学が決まっていたのですが、入学を辞退しました。そして、少しでも進行を遅らせようと大阪の鍼灸院へ通い始めました。

野球から相撲へ

野球を続けることを断念したものの、他のスポーツで頑張りたいと模索する中で、鍼灸師から勧められたのは相撲部屋(式秀部屋)への入門でした。野球と相撲とはジャンルが180度違いますが、再び選手としてスポーツができる喜びが強く入門を決意しました。5月場所国技館で新弟子検査に合格し、番付を決める前相撲で4勝3敗と勝ち越し、7月場所名古屋で四股名「徳島」で序ノ口として番付に載りました。初戦を白星で飾り、最終的に4勝3敗で初場所を勝ち越し、序二段へ昇段しました。当時、力士は1200名在籍しており、幕内に上がるのは狭き門と言われていたのですが、少しでも番付を上げようと必死に稽古に取り組みました。ところが、相撲ならではのづかりにより視力が急激に悪化し、目の前の相手がどこにいるかわからない状態までになりました。これ以上続けることは困難と引退を決意したと同時に、突発性難聴を発症し入院をすることとなりました。

パラ陸上との出会い

そこで、同じ病室で障害者スポーツに携わっている方との出会いをきっかけに、一緒に今の視力のできる障害者スポーツを探しました。障害者スポーツをあまり知らず、一時はこれでスポーツを諦めようとも思いましたが、心の底で「もう一度スポーツで花を咲かせたい」「日の丸を背負って世界で戦いたい」という思いが捨てきれませんでした。障害者スポーツを調べる中で、視覚障害者柔道やゴールボール、陸上など多種のスポーツがあることを知り、視覚障害者柔道に挑戦することにしました。初めての大会「全国視覚障害者学生柔道大会」で90kg級銀メダルを獲得し、



＜新潟ジャパンパラ大会＞

強化指定選手に指定されました。

一方で視力の悪化は止まらず、自分の視力と向き合おうと病気について調べました。調べる中で、衝撃が悪いということがわかり、視覚障害者柔道を断念しました。そして、衝撃の少ないスポーツを探した結果、陸上競技の投てき種目にたどり着きました。砲丸投げ・円盤投げから始め、競技歴1年で2013年のアジアユースパラで金メダルを獲得しました。

ようやく視力が少なく、体格を最大限に生かせる競技にたどり着き、幸せでした。翌年よりやり投げに一本化し、パラリンピック出場を目指して日々練習に取り組んでいます。

地域のために

中学校・高校や警察署などでテーマ「夢への挑戦」でこれまでスポーツを続けてきた経緯やこれからの夢(目標)の設定方法など進路関係を中心にお話をしています。講演後には、「新たな夢が見つかった」「いろいろなことに挑戦をしたい」などお手紙をいただいています。

また、2015年夏に、鳥取城北高校野球部出身の政成くんと対談が実現しました。彼も、私と同じレーベル病を抱えながら、マネージャーとしてチームを甲子園出場に導きました。対談を機に、彼もやり投げを始め、競技場で再会をすることができました。これから、仲間であり、よきライバルとしてパラ陸上を盛り上げていきたいと思っております。



＜政成さんとの対談＞

そして、来年、屋島レクザムフィールドにて日本パラ陸上競技選手権大会の開催が決定しました。全国各地から選手・スタッフ合わせ約300人が参加予定です。競技成績が世界ランキングに反映され、アジアパラリンピックの選考大会ともなる重要な大会です。これまで、パラ陸上の大会は首都圏で開催されることが多かったのですが、地元高松で開催されることから、いつも支援・応援いただける方々に実際に投げている姿を見ていただく絶好の機会だと思います。選手として、日本記録更新や優勝はもちろんですが、一人でも多くの方に競技場へ足を運んでいただき、障害者スポーツを見て・触れていただけたらと思います。そのためにも、事前合宿の開催や学校への出前講座などのPR活動を、自治体や民間企業・市民、そして他のパラアスリートと連携しながら進めていきたいと思っております。この大会は単なる大会ではなく、今後の障害者への理解と障害者スポーツのレベルアップ、交流の推進に繋がる絶好の機会だと思います。

東京パラリンピックに向けて

昨年のリオデジャネイロパラリンピックの出場権獲得には、参加標準記録突破、世界ランキング8位以内という規定がありました。私は参加標準記録を突破しましたが、世界ランキング10位ということで出場とはなりません。あと一歩と悔しい思いをしましたが、やり投げを本格的に始めて2年目でパラリンピックの選考に入れたことは、自分自身貴重な経験となりました。この悔しい思いをバネに、2020年東京パラリンピックでは必ず出場、そして少しでもよい順位を目指したいと思っております。

今後、視力がどのように変化するかかわからないという不安はありますが、野球や相撲、視覚障害者柔道など、多種のスポーツを経験することでたくさんの思い出ができました。これらは視力障害を発症したからこそ経験できたことです。そして、ようやく真剣に取り組める陸上競技にたどり着きました。ここまで、長い時間がかかりましたが、パラリンピック出場を視野に入れながら、たくさんの方に支えられて競技が出来ることに感謝をしています。これからも少しでも社会に貢献できるよう頑張っていきたいと思っております。引き続き暖かいご声援よろしくお願いいたします。



＜中学校での講演風景＞